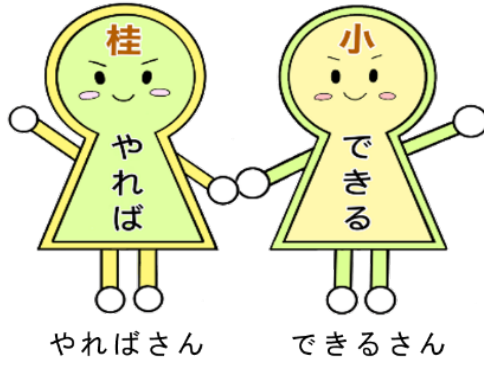


■今年度の教育活動を振り返って

桂川小学校 校長 合澤 博之

本校児童会の取組で「やればできる桂小キッズ」のマスコットキャラクターを募集しました。全校児童の数多くの応募の中から、投票により五年生児童のアイデアによる「やればさん・できるさん」に決定しました。桂川町の王塚古墳をもとにしたデザインです。



全校スローガンである「やればできる」は完全に本校みんなの合言葉となりました。遠足などの行事の際、子ども達にカメラを向けて「やれば？」と言えば、満面の笑顔で「できる！」と答えてポーズをとってくれる、そんな子どもたちが、かわいく

てたまりません。「やればできる」のスローガンが定着するにつれて、児童の学習への向き合い方も、更に向上している実感を持っています。

令和4年度も、新型コロナウイルスの感染状況は落ち着くことはありませんでした。しかし桂川町の「子どもたちの学びを止めない」という教育方針のもと、常に見直しを図りながら、できる限りの教育活動を進めていきました。その中で、特に「ふるさと学習カリキュラム」における体験活動に際して、昨年度に増して、たくさん地域の皆様のご協力をいただき、深く感謝いたします。

また、今年度は各学級に電子黒板を設置していただき、一人一台のタブレット活用と併せて、ICTを活用した教育を進めることができました。学習アプリによるドリル学習やインターネットでの調べ学習に加え、ICT機器を活用した児童同士の意見交流やプログラミング的思考者を育成するための学習も充実してきました。

「したい学びがある」「会いたい仲間がいる」「わかってくれる先生がいる」そんな学校をつくるために、教職員一同、力を合わせて頑張っております。

今後とも学校の教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

■1年間を振り返って

桂川東小学校 校長 金田 泰弘

「行動力のある子ども」の育成、「自分でよく考え、集中して学習できる子ども」の育成を本年度の重点目標として取り組んできました。重点目標がどれくらい達成できているか振り返ります。

【行動力のある子ども】

「スーパードライバー」を目指した、桂川東小のリーダーの六年生は特に、3つのことで大きな行動力を発揮しました。3年ぶりの大運動会の応援合戦では、時間をかけて知恵を絞る、コロナ禍でできることを積極的に実践しました。委員会活動では、自分たちでアイデアを出し合い、新たな活動に取り組むことができました。縦割り掃除では、リーダーとして下級生の手本となって活動しました。このように下級生に対して、伝えること・表現することの難しさを感じつつ、試行錯誤しながらやりとげたことが、最上級生としての意識の高まりや達成感につながっています。

サブリーダーの五年生は、運動会で、応援団や係の仕事をする中で、少しずつ成長する姿が見られました。中学年は、係活動等での学級の仕事に責任をもって取り組み、代表委員会、挨拶運動にも積極的に関わってき

ました。低学年は、係活動等でアイデアを出し合い、自分たちで学級を今よりさらに良く、そして楽しくしていこうとしました。どの学年も、チャレンジしようという気持ちを、行動に結びつけられたようです。

【自分でよく考え、集中して学習できる子ども】

全学年で、課題に対しての自分の考えを、まずは書くことを中心に授業に取り組んでいます。自分で考えたことを書いて、グループまたは全体で話し合い、話し合ったことをもとに自分の考えを見直して改善していきます。特に、高学年では、新聞を読み、その記事に対して自分の考えをもつ活動を重ねたことで、書くことに対しての抵抗感がなくなってきました。また、しっかりと自分の考えを持って書くことで、どの学年も学習への集中力は素晴らしいものになってきました。



▲大運動会で堂々とした選手宣誓